

クラスワイド(学級単位)のポジティブ行動支援 実践研究報告

小学校中学年児童の挨拶や号令の指導を通して、学級を活性化することに取り組む。

学級の実態

- 学級で個別に支援が必要な児童が在籍。
- 4月当初は児童同士の声かけが少ない。
- 授業に対して消極的である。
- 全体的に学習が苦しい児童が多く、授業場面でも自信がない場面が目立つ。

教員の考え

「発表場面や児童からの問いかけに対して、反応が少ないため、萎縮しやすいことがある。」

「活躍できる場面を設定し、認め合える関係をつくっていききたい。」

「細かくステップをふみながら、学力向上につなげていききたい。」



アドバイザーからの助言

- ・学習や生活面において、事前にヒントをたくさん提示し、自分でできた成功体験をつんでいきましょう。
- ・全員が褒められる機会を増やしていき、学級を活性化していきましょう。
- ・できている部分の声かけをしていき、全体を元気にしていきましょう。

本実践研究の流れ

健康観察→授業の号令→読解プリント
(指導1) (指導2) (指導3)



学級のポイントシステム

【全体】

- ☆ 1日ケンカなし
- ☆ 全員登校（18人）
- ☆ 朝の健康観察（月ごとの◎目標人数達成）
- ☆ 担任の感動シーン（児童の様子の中で）

ニコニコマグネット10個たまったら宿題1つ減る
（漢字ドリルか自主学習ノートを交代で）

話し合いで決定

【個人】

- ★ 号令◎→1P（2時間行うため1日1人最大2P）
- ★ 音読◎→1P

自主学習ノートポイントに加算



児童名	1P	2P	3P	4P	5P	6P	7P	8P	9P	10P
1 井原 幸希	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
2 磯崎 幸希	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
3 下村 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
4 戸島 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
5 高村 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
6 橋山 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
7 三木 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
8 三木 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
9 三木 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
10 高村 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
11 上山 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
12 川崎 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
13 小林 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
14 橋本 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
15 松本 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2
16 大野 悠太	45	5	6	2	2	2	2	2	2	2

指導目標の見直し

朝の健康観察で聞こえる声で「はい元気です」と返事をする
ことができる

記録方法と記録

指導前の記録(ベースライン)を6月14日～7月8日
に記録した。

- ◎2 起立+声の大きさ
- 1 どちらかができている
- △0 両方できていない

支援者が児童名簿に3段階で評価を記入した。

指導1:健康観察での挨拶

【対象児童】

通常の学級 18名

【指導場面】

朝の健康観察の時間

- 即時にフィードバックをし,男女別に1～3等賞を発表
- 聞いている児童は返事後に「そう！」と返す
- 7月は11人, 9月は12人, 10月は13人, 11月は14人等と◎の目標人数を達成すると「ニコニコマグネット」1つが獲得できる

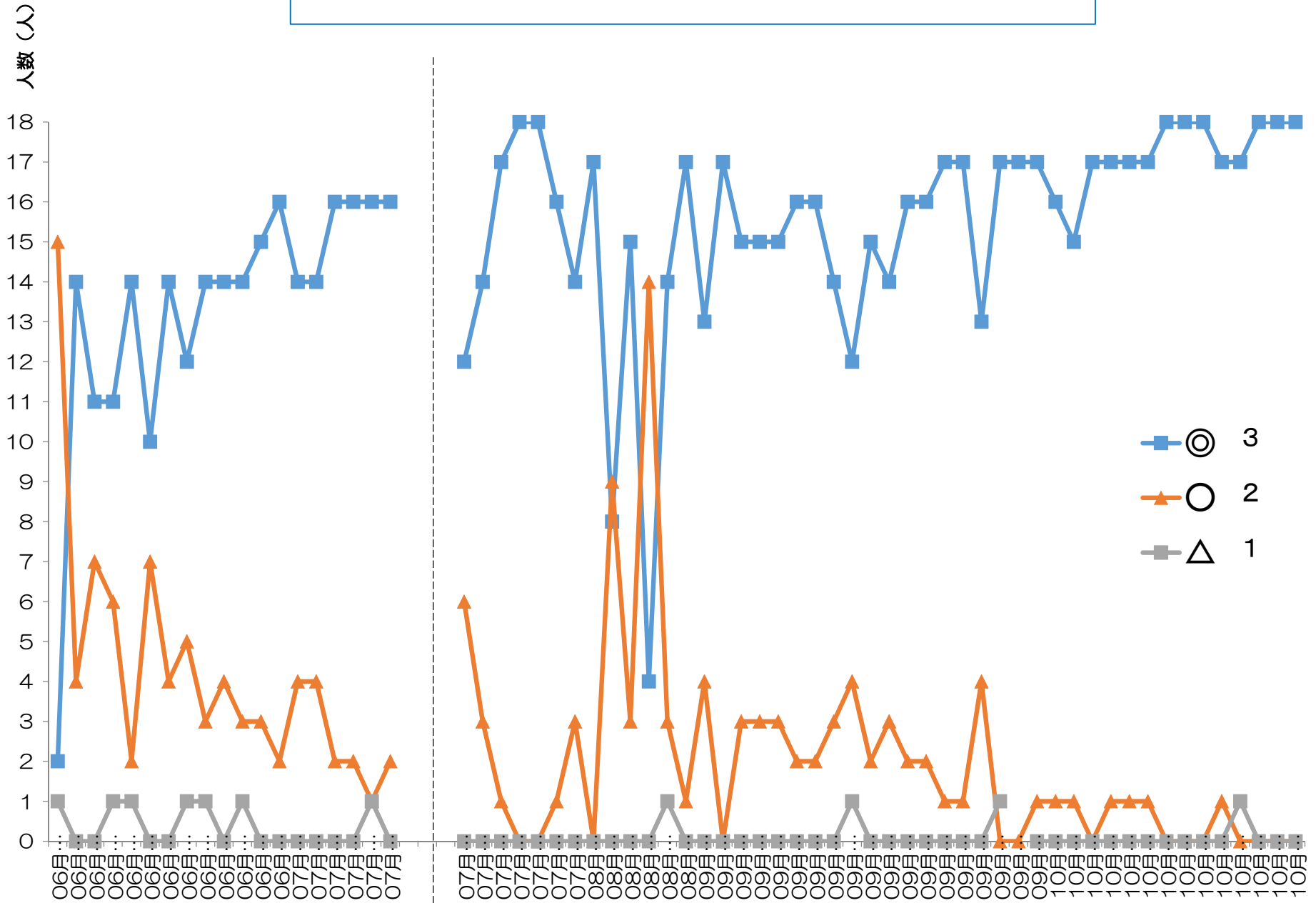


←健康観察
の様子

返事をしている→
人の方を全員で
見ます



指導1の成果(健康観察)



指導目標2

学級全員に聞こえる声で、授業の号令をかけることができる

記録方法と記録

指導前の記録(ベースライン)を7月11日～7月20日に記録した。

- ◎3 姿勢＋声の大きさ
1回で全員が整えられている
- 2 2～3人でできていない子どもがいる
- △1 半分程度できていない子どもがいる
号令とは言えないレベル

指導2: 授業での号令場面

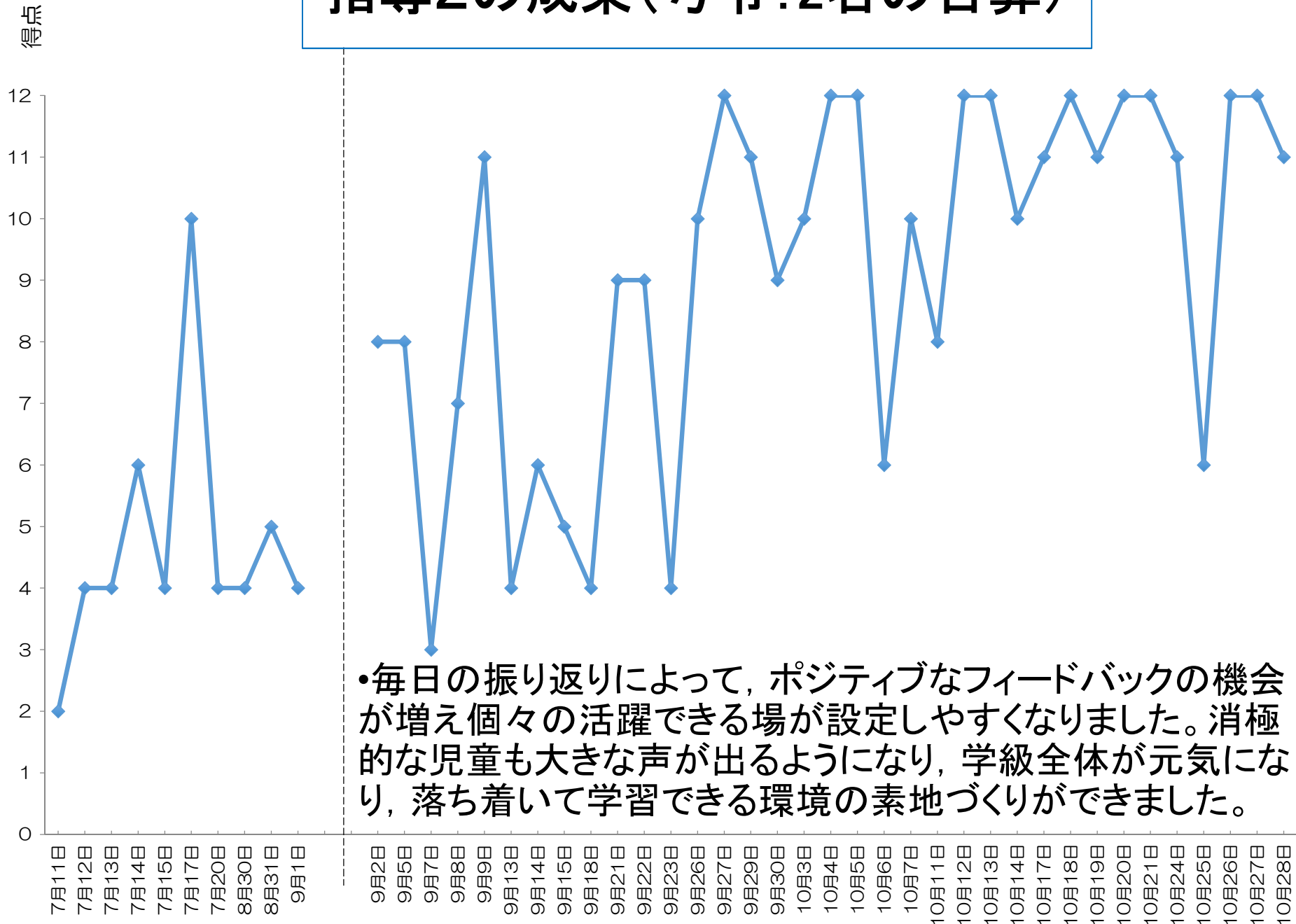
【指導場面】

授業の号令場面



- 2時間チェックをすることを児童に予告する
- 出席番号順に男女ペア
- ポイント獲得(毎日している自主学習ノートポイントに加算)できることを伝える
 - 自主学習ポイントは学級開きから担任が行っているポイント制
- ◎で1ポイント。1日一人最大2ポイント獲得できる
- 帰りの会で振り返り

指導2の成果(号令:2名の合算)



指導3

読解プリントに取り組み、読解力を向上させることができる

指導3：読解プリント

事前・事後に4年生問題テストで比較

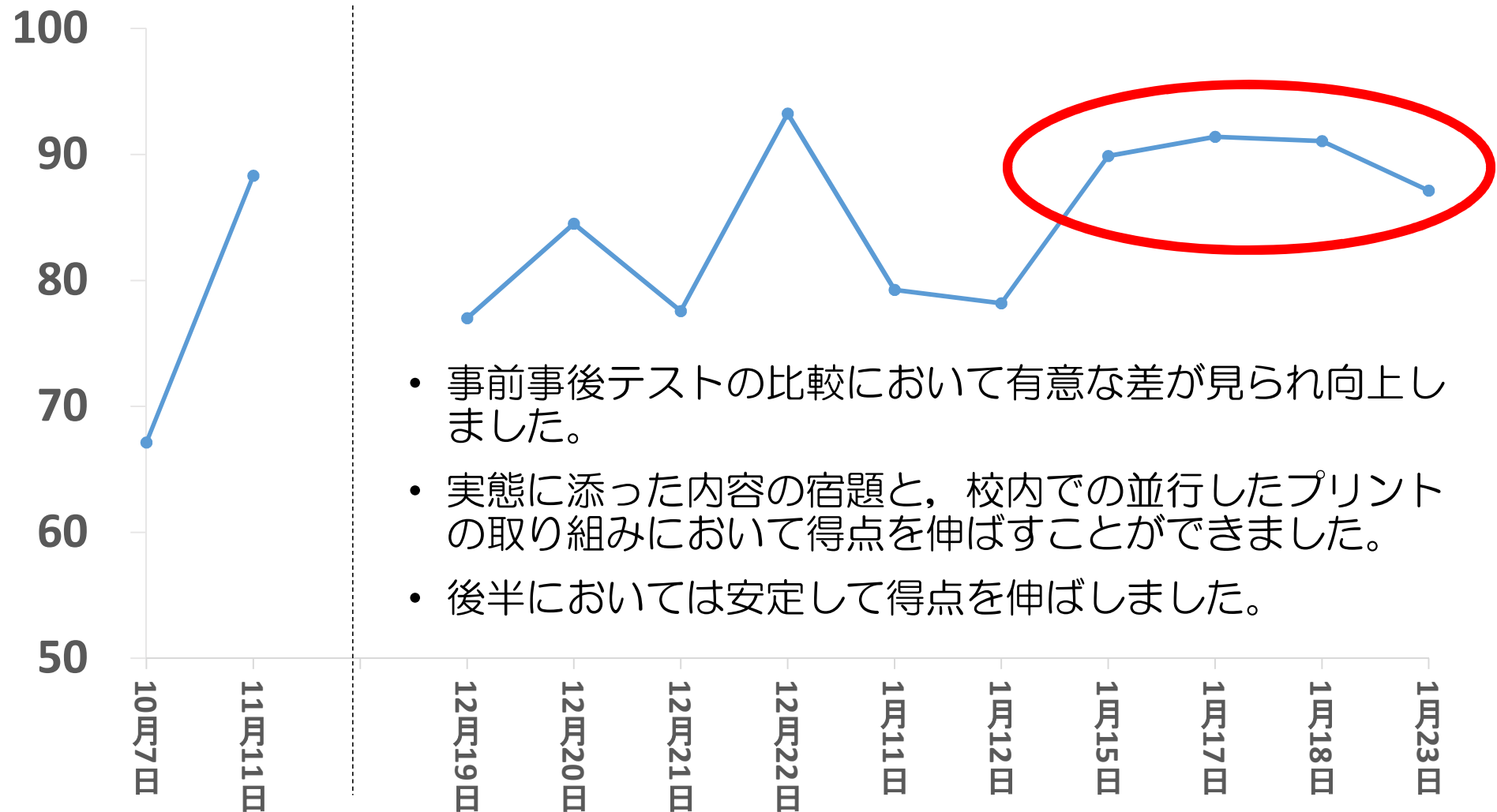
【指導場面】

国語の時間・宿題・ドリルタイム(15分)

【記録方法】

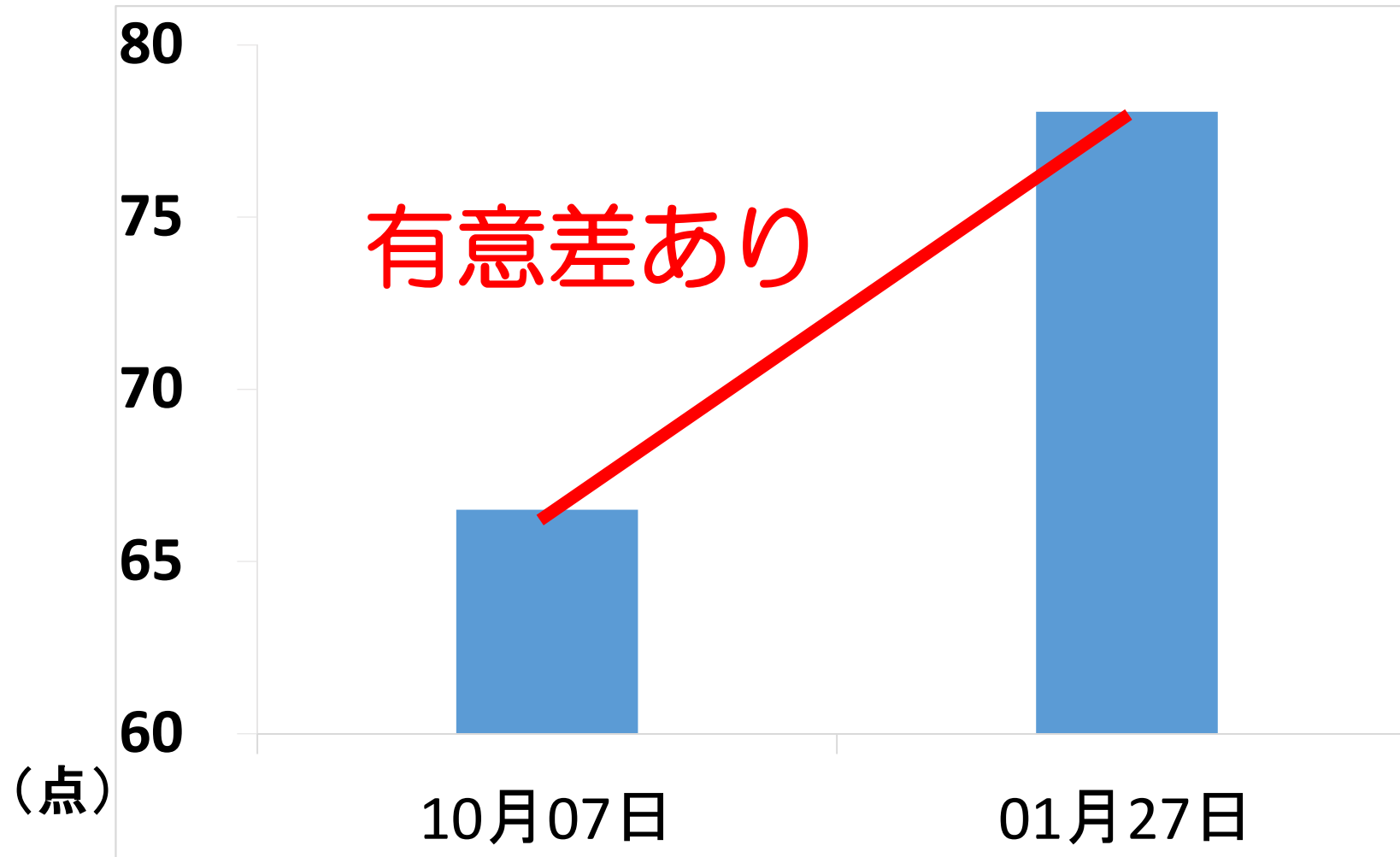
- 児童の実態に合わせた3段階の難易度のプリントを実施(宿題)
- 学校においては11月11日より全員が同じ4年生相当の内容のプリントを実施して点数を記録

指導3の成果(読解プリントの得点推移)



- 事前事後テストの比較において有意な差が見られ向上しました。
- 実態に添った内容の宿題と、校内での並行したプリントの取り組みにおいて得点を伸ばすことができました。
- 後半においては安定して得点を伸ばしました。

指導3の成果(事前・事後テスト比較)



ここが成功のポイント



○健康観察と号令の指導から，自分の活躍の場ができ，学級全体で毎回教員から認めてもらえる機会が設定された。

○学級全体，個人と両面に対するポイントシステムの有効性があった。

○落ち着いた環境となり，学習意欲が向上し，学力向上につながっていくことが考えられる。